

2024年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2024年1月15日

上場会社名 クオインタムソリューションズ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2338 URL https://www.quantum-s.co.jp/
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)マーク ピンク
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営企画室長 (氏名)邵 賛 (TEL)03(6910)0571
 四半期報告書提出予定日 2024年1月15日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年2月期第3四半期の連結業績(2023年3月1日~2023年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年2月期第3四半期	161	△13.6	△397	—	△268	—	△265	—
2023年2月期第3四半期	186	△5.0	△294	—	△113	—	△925	—

(注) 包括利益 2024年2月期第3四半期△396百万円(—%) 2023年2月期第3四半期△1,225百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年2月期第3四半期	△19.43	—
2023年2月期第3四半期	△75.66	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年2月期第3四半期	1,219	690	42.6
2023年2月期	468	396	60.6

(参考) 自己資本 2024年2月期第3四半期 519百万円 2023年2月期 284百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2024年2月期	—	0.00	—	—	—
2024年2月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年2月期の連結業績予想(2023年3月1日~2024年2月29日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,070	527.3	45	—	150	—	125	—	9.17

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 ー 社 (社名) 、除外 ー 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2024年2月期3Q	14,536,531株	2023年2月期	13,537,131株
2024年2月期3Q	38,599株	2023年2月期	38,527株
2024年2月期3Q	13,676,792株	2023年2月期3Q	12,227,468株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10
(重要な後発事象)	11
3. その他	12
継続企業の前提に関する重要事象等	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、アフターコロナの需要拡大に伴い緩やかな回復がみられますが、為替レートの不安定な推移等によるインフレ傾向が顕著であり、今後も引き続き、厳しい状況が継続すると見込まれます。

このような状況のもと、当社グループは、システムソリューション事業において、第2四半期連結累計期間より、AI関連事業展開の準備に着手しております。また、アイラッシュケア事業に関しては、アフターコロナの影響により、サロンの売上が好調であり、現在営業を行っている3店舗においては、対前期比110%を達成いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間につきましては、売上高161百万円（前年同期比13.6%減）、営業損失397百万円（前年同期は営業損失294百万円）となりました。経常損失は268百万円（前年同期は経常損失113百万円）となり、親会社株主に帰属する四半期純損失は265百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失925百万円）となりました。

セグメント別の売上高は、以下のとおりであります。

(システムソリューション事業)

当事業におきましては、5G技術とAI技術を融合した関連事業として、当第3四半期連結累計期間より、AI関連事業展開の準備も始めております。その一環として、2023年7月にCompass Cloud Technology Pte. Ltd.（以下「Compass Cloud」という。）との合弁会社としてコンパスクラウド AI ジャパン株式会社を設立し、同社において、Compass Cloudの開発した計算効率に優れ、消費電力やサイズで他社製品に比較優位性のあるARMベースのエッジ・サービス・ハードウェアを利用し、AI、エッジコンピューティング、クラウドストレージ、クラウドゲーミング、デジタルツイン事業を日本で展開していく予定です。

また、その後、同年同月に「第三者割当による第12回新株予約権の発行に関するお知らせ」で開示したように、AI生成コンテンツ（以下「AIGC」といいます。）事業を具体的かつ相応の速度で進めるため、新株予約権発行による資金調達を行いました。

さらに、現在、大規模言語モデルを活用したいわゆる生成型AIの開発が爆発的に進んできており、使用されるGPUの市場規模が急速に拡大しているため、2023年9月に当社はKAYTUS SINGAPORE PTE. LTD.（以下「KAYTUS社」という。）と販売代理店契約を締結し、AI開発向けGPUサーバーの販売を開始しております。本事業は現在、予定通り進んでおり、KAYTUS社から高性能GPUサーバーを調達して検索エンジン大手企業を含んだ販売先へ提供を開始しております。

以上のように事業を進めていく予定ですが、当第3四半期連結会計期間においては、まだ結果が出ていない状況です。その結果、売上高は26百万円（前年同期比5.1%減）、売上構成比は16.2%となりました。セグメント損失（営業損失）は100百万円となり、前年同四半期と比べ37百万円（前年同期は138百万円の営業損失）の増益となりました。

(アイラッシュケア事業)

当事業におきましては、予約が2か月先まで獲得されているなどの状況で、サロンの売上が好調であり、現在営業している3店舗に関しては、前年対比で110%となっております。特に有楽町マルイ店は前年対比126%と大幅に伸びておりますが、前期に3店舗閉鎖していることから、店舗数が減少しているため、サロン全体の売上高は前年比86%となっております。また、自社サイトでの商材販売においては、顧客一社あたりの売上の減少、他社の安価な商材の市場参入などにより前年対比81%と不本意な結果となりました。

その結果、売上高は135百万円（前年同期比15.1%減）、売上構成比は83.8%となりました。セグメント損失（営業損失）は15百万円となり、前年同四半期と比べ31百万円（前年同期は47百万円の営業損失）の増益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて737百万円増加し、1,179百万円となりました。これは、主に現金及び預金が455百万円、商品及び製品が421百万円増加し、未収入金が111百万円減少したことによります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて13百万円増加し、39百万円となりました。これは、主に差入保証金が10百万円増加したことによります。この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて750百万円増加し、1,219百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて450百万円増加し、522百万円となりました。これは、主に買掛金が395百万円増加したことによります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて6百万円増加し、6百万円となりました。この結果、負債は、前連結会計年度末に比べて457百万円増加し、529百万円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて293百万円増加し、690百万円となりました。これは、主に資本金及び資本剰余金がそれぞれ314百万円増加し、利益剰余金が265百万円及び為替換算調整勘定が126百万円減少したことによります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想に関しては、売上高では、当第3四半期連結累計期間までに活発な営業活動を展開したシステムソリューション事業において、AIエッジコンピューティング等の提供、AI（人工知能）用GPUサーバーなどの販売や関連サービスでの大幅な取扱高の増加を見込んでおります。一方で、EV事業において部品調達の遅延による生産の遅れ等の影響が下期以降も引き続き予想されることから製造計画の遅延及び競合環境を勘案し、計画を下方修正しております。

その結果、売上高は、前回発表予想2,070百万円からの増収が想定されます。同様に営業利益も当該売上計上に伴って発生する販売管理費の増加を見込んだ上で、営業利益においても前回予想値45百万円から増益を見込んでおります。然し乍ら、昨今の当社主力商品であるAI（人工知能）GPUサーバーのメーカー在庫状況が世界的に逼迫していることや国際的なロジスティクスの混乱から仕入れ商品の輸送に想定以上に時間がかかるおそれもあり、当期末までに実現できる売上並びに収益を慎重に精査の上で算定予定につき、現時点での具体的な予想数値は差し控えます。

尚、当期売上増加の大宗を占める主要なGPUサーバーの販売状況に関しては、開示ベースで以下3つの取引については、下記①と②は納品・検収・資金決済の全てが完了しております。

- ① 2023年9月29日開示：売上高約24百万円、販売先…量子ディープラーニング取組みIT企業。検収は9月29日で、第3四半期決算に売上利益計上済です。
- ② 2023年11月9日開示：純額処理扱い34百万円、販売先…データセンター向けIT機器販売会社。検収は12月15日で、2024年2月期決算に計上予定です。
- ③ 2023年10月23日開示：純額処理扱い145百万円、販売先…FUTURANEX TECHNOLOGY Co., Ltdについては、納品、検収、資金決済いずれも、2月取引完了予定で、2024年2月期決算に計上予定です。
- ④ 2023年10月12日開示：取扱高1,680百万円、販売先グローバルネットサービス提供企業向けについては、1月12日付IRにて経過開示した通り、売買契約締結が本年1月となっておりますが、当期中に契約締結・納品・検収が完了する見通しであり、当期業績予想への影響はありません。

また、現在ニュージーランドにてオンラインストレージサービスを提供する企業向け大口のGPUサーバーの販売を予定しており、販売契約締結を間近に控えております。本件も売買契約締結後納品・検収を当期中に完了する予定ですが、期末近くでの取引でもあり、当期業績予想への影響は慎重に検討の上、計上基準を満たすと判断した時点で速やかに公表する予定です。

又、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益に関しては、営業利益の改善、為替の影響及び非支配株主持分損益等に生じた当第3四半期累計期間における差異を反映して修正する予定です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	236,335	692,044
売掛金	45,034	11,625
商品及び製品	40,070	461,545
未収入金	112,198	202
その他	15,983	21,543
貸倒引当金	△7,368	△7,368
流動資産合計	442,254	1,179,592
固定資産		
有形固定資産	-	1,842
無形固定資産	-	2,798
投資その他の資産		
差入保証金	17,501	27,826
長期貸付金	25,000	25,000
長期立替金	611,405	660,347
その他	20	20
貸倒引当金	△627,480	△678,091
投資その他の資産合計	26,447	35,103
固定資産合計	26,447	39,744
資産合計	468,701	1,219,337
負債の部		
流動負債		
買掛金	3,302	398,792
未払金	62,202	24,385
未払法人税等	2,856	2,406
預り金	2,466	2,008
その他	1,216	94,869
流動負債合計	72,044	522,462
固定負債		
その他	-	6,736
固定負債合計	-	6,736
負債合計	72,044	529,198

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,954,572	3,268,604
資本剰余金	2,537,386	2,851,419
利益剰余金	△5,017,813	△5,283,575
自己株式	△59,086	△59,198
株主資本合計	415,059	777,249
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	△131,031	△257,740
その他の包括利益累計額合計	△131,031	△257,740
新株予約権	112,629	168,087
非支配株主持分	-	2,541
純資産合計	396,657	690,139
負債純資産合計	468,701	1,219,337

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年3月1日 至2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年3月1日 至2023年11月30日)
売上高	186,684	161,250
売上原価	46,748	39,818
売上総利益	139,936	121,432
販売費及び一般管理費	434,492	518,976
営業損失(△)	△294,555	△397,543
営業外収益		
受取利息	746	621
受取配当金	0	0
助成金収入	2,891	-
為替差益	187,194	131,985
その他	253	1,843
営業外収益合計	191,085	134,450
営業外費用		
支払利息	10,373	-
支払手数料	-	3,267
株式交付費	-	1,904
その他	54	-
営業外費用合計	10,428	5,172
経常損失(△)	△113,899	△268,265
特別利益		
新株予約権戻入益	31,997	-
特別利益合計	31,997	-
特別損失		
貸倒引当金繰入額	619,419	-
減損損失	222,217	-
特別損失合計	841,637	-
税金等調整前四半期純損失(△)	△923,539	△268,265
法人税、住民税及び事業税	1,636	1,462
法人税等合計	1,636	1,462
四半期純損失(△)	△925,176	△269,727
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	-	△3,965
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△925,176	△265,762

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日)
四半期純損失(△)	△925,176	△269,727
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△174,137	-
為替換算調整勘定	△126,497	△126,709
その他の包括利益合計	△300,635	△126,709
四半期包括利益	△1,225,811	△396,437
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,225,811	△392,471
非支配株主に係る四半期包括利益	-	△3,965

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度におきまして営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりました。また、当第3四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施してまいります。

システムソリューション事業では、5G技術とAI技術を融合させた関連事業の一環として、EV事業を開始しておりますが、並行して、当第3四半期連結累計期間より、AI関連事業展開の準備も始めております。その一環として、2023年7月に「合弁会社（持分法適用関連会社）設立に関するお知らせ」で開示したように、Compass Cloud Technology Pte. Ltd. との合弁会社としてコンパスクラウド AI ジャパン株式会社を設立し、同社において、Compass Cloudの開発した計算効率に優れ、消費電力やサイズで他社製品に比較優位性のある ARM ベースのエッジ・サービス・ハードウェアを利用し、AI、エッジコンピューティング、クラウドストレージ、クラウドゲーミング、デジタルツイン事業を日本で展開していく予定です。

また、その後、同年同月に「第三者割当による第12回新株予約権の発行に関するお知らせ」で開示したように、AI生成コンテンツ（以下「AIGC」といいます。）事業を具体的かつ相応の速度で進めるため、新株予約権発行による資金調達を行いました。これに加え、2023年11月にJP Games社と資本業務提携に向けたMOUを締結、2024年1月に同社株式を2.5%取得し、当社AIGC事業とのシナジーを目指し具体的な業務提携の検討を進めております。

さらに、現在、大規模言語モデルを活用したいわゆる生成型AIの開発が爆発的に進んできており、使用されるGPUの市場規模が急速に拡大しているため、2023年9月に当社はKAYTUS SINGAPORE PTE. LTD.（以下「KAYTUS社」という。）と販売代理店契約を締結し、AI開発向けGPUサーバーの販売を開始しております。本事業は現在、予定通り進んでおり、KAYTUS社から高性能GPUサーバーを調達して検索エンジン大手企業を含んだ販売先へ提供しております。

アイラッシュケア事業では、商材の販売については、出荷数の伸びが著しいエイジングケアのサポートをするまつ毛美容液のリニューアルをおこない、サロン及び自社サイトでの重要商品として位置づけ、更なる販売を加速させてまいります。

サロンにおきましては、引き続き新規顧客獲得するための新たなメニューを開発し、顧客獲得を図ります。また、価格面においては、コスメのディスカウント戦略を継続し、シーズンごとに割引商品を設定することなどを行うことで、既存顧客・新規顧客のリピート率を高めることを狙います。これらの施策により、売上高の増大を目指してまいります。

AIGC事業については、第12回新株予約権により、資金調達の見通しがついておりますが、それ以外に関して、今後必要となる事業資金の確保については、資金調達で得た資金や手元資金の他、必要に応じた新たな資金調達を検討することで対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響を受けるほか、新株予約権者や投資家の御意向や事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、2022年8月29日付でFirst Link Inc Limited及びLiu Yang氏よりそれぞれ第9回新株予約権の権利行使を受け、新株を発行しました。また、2022年9月1日付でLiu Yang氏より第9回新株予約権の権利行使を受け、新株を発行しました。その結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ253,613千円増加し、当第3四半期連結累計期間末において資本金が2,912,293千円、資本剰余金が2,495,108千円となっております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年11月30日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動に関する事項

当社は、2023年4月、6月及び11月に新株予約権の行使を受け、合計999,400株の新株を発行しました。この結果、当第3四半期連結累計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ314,032千円増加し、当第3四半期連結会計期間末において資本金が3,268,604千円、資本剰余金が2,851,419千円となっております。

(追加情報)

当第3四半期連結累計期間 (自2023年3月1日至2023年11月30日)
当社及び一部の国内の連結子会社は、第1四半期連結会計期間から、連結納税制度からグループ通算制度に移行しております。これに伴い、法人税及び地方法人税並びに税効果会計の会計処理及び開示については、「グループ通算制度を適用する場合の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第42号 2021年8月12日。以下「実務対応報告第42号」という。)に従っております。また、実務対応報告第42号第32項(1)に基づき、実務対応報告第42号の適用に伴う会計方針の変更による影響はないものとみなしております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2022年3月1日至2022年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システムソ リューション 事業	アイラッシ ュケア事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	27,601	159,083	186,684	-	186,684	-	186,684
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	27,601	159,083	186,684	-	186,684	-	186,684
セグメント損失 (△)	△138,872	△47,245	△186,117	△504	△186,621	△107,934	△294,555

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント損失の調整額△107,934千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2023年3月1日至2023年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	システムソ リューション 事業	アイラッシ ュケア事業	計				
売上高							
外部顧客への 売上高	26,200	135,050	161,250	-	161,250	-	161,250
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	26,200	135,050	161,250	-	161,250	-	161,250
セグメント損失 (△)	△100,935	△15,953	△116,888	△1,164	△118,053	△279,490	△397,543

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

2. セグメント損失の調整額△279,490千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(重要な後発事象)

(資本提携契約書及び株式譲渡契約の締結)

当社は合同会社TBTオフィス及びJP GAMES株式会社との間で、JP GAMES株式会社の株式の取得110株（発行済株式の2.5% 取得総額122,500 千円）を含む資本業務提携を行うことを2023年12月15日及び2023年12月22日開催の取締役会で決議し、資本提携契約書を2023年12月22日に締結しております。なお、2024年1月12日に同社株式に係る株式譲渡契約を締結し、同日支払を完了しております。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度におきまして営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する当期純損失を計上し、営業活動によるキャッシュ・フローがマイナスとなりました。また、当第3四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失を計上しております。これらの状況により、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループは、当該状況を早急に解消するため、以下の施策を実施してまいります。

システムソリューション事業では、5G技術とAI技術を融合させた関連事業の一環として、EV事業を開始しておりますが、並行して、当第3四半期連結累計期間より、AI関連事業展開の準備も始めております。その一環として、2023年7月に「合弁会社（持分法適用関連会社）設立に関するお知らせ」で開示したように、Compass Cloud Technology Pte. Ltd. との合弁会社としてコンパスクラウド AI ジャパン株式会社を設立し、同社において、Compass Cloudの開発した計算効率に優れ、消費電力やサイズで他社製品に比較優位性のある ARM ベースのエッジ・サービス・ハードウェアを利用し、AI、エッジコンピューティング、クラウドストレージ、クラウドゲーミング、デジタルツイン事業を日本で展開していく予定です。

また、その後、同年同月に「第三者割当による第12回新株予約権の発行に関するお知らせ」で開示したように、AI生成コンテンツ（以下「AIGC」といいます。）事業を具体的かつ相応の速度で進めるため、新株予約権発行による資金調達を行いました。これに加え、2023年11月にJP Games社と資本業務提携に向けたMOUを締結、2024年1月に同社株式を2.5%取得し、当社AIGC事業とのシナジーを目指し具体的な業務提携の検討を進めております。

さらに、現在、大規模言語モデルを活用したいわゆる生成型AIの開発が爆発的に進んできており、使用されるGPUの市場規模が急速に拡大しているため、2023年9月に当社はKAYTUS SINGAPORE PTE. LTD.（以下「KAYTUS社」という。）と販売代理店契約を締結し、AI開発向けGPUサーバーの販売を開始しております。本事業は現在、予定通り進んでおり、KAYTUS社から高性能GPUサーバーを調達して検索エンジン大手企業を含んだ販売先へ提供しております。

アイラッシュケア事業では、商材の販売については、出荷数の伸びが著しいエイジングケアのサポートをするまつ毛美容液のリニューアルをおこない、サロン及び自社サイトでの重要商品として位置づけ、更なる販売を加速させてまいります。

サロンにおきましては、引き続き新規顧客獲得するための新たなメニューを開発し、顧客獲得を図ります。また、価格面においては、コスメのディスカウント戦略を継続し、シーズンごとに割引商品を設定することなどを行うことで、既存顧客・新規顧客のリピート率を高めることを狙います。これらの施策により、売上高の増大を目指してまいります。

AIGC事業については、第12回新株予約権により、資金調達の見通しがついておりますが、それ以外に関して、今後必要となる事業資金の確保については、資金調達で得た資金や手元資金の他、必要に応じた新たな資金調達を検討することで対応してまいります。

しかし、これらの対応策の実現可能性は、市場の状況、需要動向、他社との競合等の影響を受けるほか、新株予約権者や投資家の御意向や事業計画の達成如何にも左右されるため、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、上記のような重要な不確実性の影響を反映しておりません。